

懸案の宗制で意見交換

地震義援金1000万円目指す

東本願寺派中部連区新年総会

浄土真宗東本願寺派の中部連区（会長＝瀬辺玄信瀬辺西宝寺住職）は一月二十六、二十七日の両日、石川県の片山津温泉で新年総会を開催した。会には全国から約三十人が出席、懸案になっている宗制の改正案について意見を交換したほか、兵庫県南部地震への義援金を目標額一千万円で募ることなどを決めた。

同連区はお東紛争のあおりで大谷派から独立した近畿、東海、北陸の約六十カ寺で結成された。年二回の研修会、隔月で集う世話人会などで交流しているほか、機関紙『ともしび』も発刊。昭和六十二年、本山東京本願寺（大谷光紹法主、東京都台東区）が東本願寺派を旗揚げした際にはいち早く光紹法主夫妻の巡化を仰ぎ祝賀会を開いた。

会は大岡教区（代表＝上田祐邦佛巖寺住職）を世話人にして、葉室文昭氏（光専寺住職、富山県射水郡）の司会で進められた。まず、瀬辺会長が「皆さんの元気な顔を拝見できた。宗制など今年は課題が多い。皆さんと考えていきたい」と挨拶。そして、今春から世話人を引き継ぐ尾張教区（代表＝瀬辺会長）が、今夏の研修会を岐阜で楠恭東京本願寺学院教授を講師に催すことを報告し、「坊守、寺族とともにご参加を」と呼びかけた。

上田高岡教区代表の挨拶に続き、月田彰英本山東京本願寺執務長の発声で乾杯に移った。その中で月田執務長は西林寺（二階堂正純住職、兵庫県明石市）や神戸別院（華房嶺磨輪番、神戸市兵庫区）、遍満寺（河野文磨住職、大阪市西淀川区）など被災寺院へお見舞いの言葉を述べるとともに、義援金の趣旨を説明。一千万円を目標に宗門から善意を集めて、被災寺院の復興に役立ててもらおうとともに日赤に寄付する考えも示した。

宴は和やかに繰り広げられ、最後に三谷雅文高岡教区前代表（西方寺住職、富山県礪波市）が「宗門の皆さんが手を携え、台下（光紹法主）のお導きで蓮如上人五百回忌を円成できるよう」と呼びかけて幕を閉じた。

なお、懸案の宗制については月田執務長と個々が意見を交換した。現在、本山と一般寺院は包括、被包括関係を結ばず、一般寺院が「崇敬届け」を本山に届ける形で宗派を形成。新宗派旗揚げで一度、宗制が作られたが、数年前から改正案が本山から提示され、東京、高岡、尾張の有志住職たちで議論されていた。

瀬辺会長は昨年、「親睦団体ではなく、社会的に認知される教団に」と、「本山を入れないで末寺どうしが包括団体を作る」という案を半年かけて作って本山に提出、九州寺務所（所長＝清原正光明寺住職）や都内の有志らにも送付した。

“瀬辺案”では法主が住職の任命権など宗派に一定の権限を持ち、その一方で宗派は本山に“くちばし”を入れず、崇敬、護持だけをしていく形をとっている。また、気になる賦課金については“会費制”で宗派を運営していく考えだ。

このほか、高岡教区では一昨年から葉室氏を座長に「宗制検討委員会」を十人のメンバーで発足させ、草案を作った。これは包括、被包括関係を結ばず、「東京本願寺と宗派は法的には別個でありながら、御法主に“監督”のようなお立場になってもらい、個々の寺のプレー（教化）の方向を定めてもらう」という内容のもの。賦課金は協力金として扱い、従来通り、崇敬届だけで「本末関係」を続けるという。葉室座長は弁護士にも相談しながら案の整備を進めてきたが、教区内の一部メンバーの反対で草案を本山へ提出していない。

この会で月田執務長は有志の意見、案などを聞きながら、新たな宗制を煮詰めていきたい考えを見せていた。

新年総会の出席者は次の通り（順不同、敬称略）。

▽尾張教区＝瀬辺玄信（瀬辺西宝寺）、斉藤佳勝（善勝寺）、飯田満（信楽寺）、安井興紹（鴻恩寺）、織田和麻呂（香圓寺）、藤井香潤（善福寺）
▽大垣教区＝竹中孝信（妙永寺）
▽長浜教区＝津布良幹夫（称名寺）
▽福井教区＝長谷部

肇（雲乗寺）、中戸旬（恵光寺）、月田彰英（広善寺）、桑門順（成福寺）、高田理真（了休寺）▽高岡教区＝今堀萌（専念寺）、葉室文昭（光専寺）、蒲生恭一（妙専寺）、三谷雅文（西方寺）、岡田靖（龍専寺）、日和祐樹（光永寺）、倉地俊雄（円楽寺）、上田祐邦（佛巖寺）

東寺真言宗

藤原宗務総長ら神戸市へ

「震災対策委」を設置

兵庫県南部地震（阪神大震災）で被害を多く受けた神戸市の中央区、兵庫区、長田区や宝塚市に寺院を有する東寺真言宗（藤原義章宗務総長、宗務庁＝京都市南区東寺内）では、倒壊、全焼、活動不可能寺院の他、何らかの被害を受けた寺院が二十一カ寺に及んでいることが判明した。

このため、「東寺真言宗支所下阪神大震災対策委員会及び被災者救援活動委員会」を設置、その一回目の会議を一月三十一日午前十一時から京都・東寺洛南会館で開いたあと、藤原宗務総長、松下降洪宗会副議長、橋本尚信庶務部長の三人がリュックに薬や日用品を詰めて被災寺院のある神戸市に電車とバスをつかって入った。被災寺院を訪れて見舞うとともに委員会からの見舞金の手渡された。本山東寺からも応分の見舞金が寄せられている。

東寺真言宗の被災寺院の中では、神戸市長田区、西代寺（高木寶瑞住職）が、本堂・庫裡とも全壊。前住職・木田有岳氏夫人が死亡、高木住職の居宅が全焼している。同区の寶塔院（神先賢雄住職）は全焼している。

なお、東寺真言宗支所下阪神大震災対策委員会のメンバーは、藤原宗務総長、川崎真雅教学部長、橋本庶務部長、釈泉有財務部長、本山東寺砂原秀遍事務長、森泰長東寺総務部長、東田教範宗会議長、松下副議長、宝田宗雄審査委員長、近隣の宗会議員として宝山真海氏の十人で構成されている。